

福井県ふるさと文学館報

第9号

いあこさつ

館長 柴野 康二

ふるさと文学館は平成二十七年に開館し、はや八周年を迎えました。福井ゆかりの作家や貴重な資料をご寄贈いただいた方、文学館を愛して何度も足を運んでくださる方など、様々な方にご支援、ご協力を賜り、コロナ禍の中にもかかわらず多くの方にご来館いただきました。厚く御礼申し上げます。

今年度は、春の「新収蔵品展」で新たにふるさと文学館に収蔵された貴重な資料の数々を紹介しました。夏の企画展「角野栄子展〜魔女とおぼけの世界へ〜」、また萩原朔太郎大全二〇二二の一環として秋季企画展「師・萩原朔太郎と三好達治」を、特別館長の津村節子氏よりご寄贈いただいた自筆原稿を中心に紹介する「新収蔵 津村節子展〜津村節子という生き方〜」を開催いたしました。いずれの企画展も県内外から来館された方々が、作家の世界観や作品世界にいろいろな角度から触れ、さらに文学に親しみを持っていただけの機会ができたのではないかと感じます。

展示関連のイベントとして講演会や文学講座、ジュニア文学カフェのほか、今年八期目となる「ふくい文学ゼミ」、創作講座や文章講座、講師が直接学校に向く出前文芸創作教室を行いました。今後も福井県の文学の素晴らしさを紹介すべく、展示や講演会、創作講座などを通して、皆様が文学に親しむ機会を提供してまいります。引き続きご支援、ご協力をお願い申し上げます。

企画展

新収蔵品展2022

会期 四月三日(土)〜六月五日(日)

本展では、昨年度にご寄贈いただいた資料を中心に、福井ゆかりの深い作家・作品に関する貴重資料を展示しました。

水上勉の『寺泊』『停車場有情』など多くの挿画を手掛けた司修氏の原画やスケッチ、高校・大学時代を福井県で過ごした女性史研究者・山崎朋子の代表作『サンダカン八番娼館』原稿や取材メモ、戦中戦後、三國に滞在した詩人・三好達治のエッセイ「草上記」原稿、越前市出身の書家で評論家の石川九楊氏の書作品、そして生誕一〇年を迎えた多田裕計の芥川賞受賞帯つき『長江デルタ』など、様々な文学資料をご紹介します。



角野栄子展〜魔女とおぼけの世界へ〜

会期 七月二日(土)〜九月四日(日)

夏季企画展として、児童文学作家・角野栄子氏の作品を紹介する展覧会を開催しました。角野栄子氏は、『ルイジーンニ少年ブラジルをたずねて』で作家デビューして以来、五〇年にわたる『魔女の宅急便』など数多くの作品を生み出してきました。

本展では、『魔女の宅急便』や四〇年以上続く人気シリーズ「アッチ・コッチ・ソッチの小さなおばけシリーズ」を中心に、作品世界や創作の軌跡を紹介し、魔法とユーモアがあふれる角野ワールドを楽しんでいただきます。

また、魔女のワンピースや魔女のほうきづくり、魔女になってお届けものをする企画など多くの方にご参加いただきました。



師・萩原朔太郎と三好達治

会期 一〇月一日(土)〜令和五年一月九日(月・祝)

秋季企画展として、没後八〇年を迎えた詩人・萩原朔太郎と、朔太郎を師と慕った三好達治を紹介する展覧会を開催しました。

一八八六年、現在の群馬県前橋市に生まれた萩原朔太郎は、従兄の影響で短歌を作り始め、やがて詩作にのめり込んでいきます。

一九一七年に詩集『月に吠える』、一九二三年に詩集『青猫』を発表、日本近代詩に口語自由詩のスタイルを確立しました。そして朔太郎の詩を学生時代から愛読し大きな影響を受けたのが三好達治です。一九二七年に初めて会って以来、生涯にわたり師弟として交流を続けました。

展覧会では、「地面の底の病気の顔」詩稿、詩集『氷島』自序原稿、愛用のギターや自



筆楽譜、達治が朔太郎に宛てた書簡など前橋文学館の所蔵する朔太郎の貴重な資料を展示したほか、エッセイ「草上記」原稿、朔太郎を悼みその詩業を称えた詩「師よ萩原朔太郎」書幅など当館蔵の達治資料を展示。二人の詩人の激しくも温かい交友の軌跡をご紹介します。

新収蔵 津村節子展〜津村節子という生き方〜

会期 令和五年三月一日(水)〜六月四日(日)

当館の特別館長・津村節子氏より貴重な原稿類をご寄贈いただいたのを機に、新たに収蔵した資料と作品を紹介する展覧会を開催しました。

「西色の戦記」「星祭りの町」「瑠璃色の石」といった自伝的小説、芸術選奨文部大臣賞を受賞した「智恵子飛ぶ」、女流文学賞を受賞した「流星雨」、八丈島に流された遊女の悲哀を描いた「黒い潮」などの代表作を展示し、津村節子氏の多彩な作品世界を紹介しました。



特集展示

◆プロローグゾーン

福井の絶景を描いた文学

期間 三月二五日(金)〜六月二二日(水)

敦賀の海を美しく描いた緑山秋子氏の小説『海の人』や、泉

鏡花の戯曲「夜叉ヶ池」など、福井各地の絶景を舞台にした小説や随筆、詩歌を紹介しました。

福井ゆかりの作家による児童文学・絵本

期間 六月二十四日(金)～九月四日(日)

福井ゆかりの児童文学者・山本和夫や絵本作家の加古里子(かこさとし)らを中心に、児童文学や童話、絵本を紹介しました。

鉄道開業一五〇年記念!

鉄道特集 福井の鉄道を描いた文学

期間 九月六日(火)～十二月二日(水)

一八七二年一月一日に日本初の鉄道が開業して一五〇年。これを記念し、県立図書館、文書館、ふるさと文学館の三館で連携して鉄道にちなんだ展示を行いました。当館では荒川洋治氏の随筆『忘れられる過去』など、福井の鉄道や駅が登場する文学作品を紹介しました。



福井ゆかりの俳人 皆吉爽雨生誕一二〇年記念展示

期間 九月六日(火)～十二月二日(水)

高浜虚子、大橋櫻坡子らに師事し、俳誌『雪解』を創刊・主宰し活躍した福井出身の俳人・皆吉爽雨の生誕一二〇年を記念した

展示を開催しました。

パラルワールド・フクイ 架空のふくいを描いた文学

期間 十二月三日(金)～令和五年三月一日(水)

水上勉の『越前竹人形』や島田雅彦氏の『絶望キャラクター』など、福井の架空の町や施設が登場する小説を特集しました。

ようこそ文学館へ!

～二〇二三年にふるさと文学館に来館された作家たち～

期間 十二月三日(金)～令和五年四月九日(日)

二〇二二年に来館した作家のうち、児童文学作家の角野榮子氏や直木賞作家の中島京子氏、前橋文学館館長の萩原朔美氏など、九名の方の色紙や写真、著作などを紹介し、ふるさと文学館の一年を振り返りました。

〈タイムリースポット〉

加古里子没後四年 「からだと健康」

期間 四月一日(土)～六月二日(水)

越前市出身の絵本作家・加古里子(かこさとし)の没後四年にちなみ、『ほねはおれますくだけです』や『むしろミュージアンスのぼうけん』など、人体や健康に関する作品とその複製原画を紹介しました。

おしどり文学館協定 福井県 荒川区合同特集展示 津村節子と吉村昭 ～おしどり文学館協定の歩み～

期間 一〇月二八日(金)～二月二一日(水)

おしどり文学館協定五周年の歩みと、ふるさと文学館、吉村昭記念文学館の両館の活動を紹介しました。

津村節子「智恵子飛ぶ」～芸術家夫婦を描いて～

期間 一二月三日(金)～

令和五年三月一五日(水)

荒川区とゆかりの深い芸術家夫婦の高村光太郎と高村智恵子夫妻。二人の葛藤と波乱に満ちた人生を描いた津村節子氏の小説『智恵子飛ぶ』を紹介しました。



◆ギャラリー・文学の小路

森鷗外記念館「鷗外が愛でた草花」パネル展

期間 四月一六日(土)～六月二一日(火)

津和野町の森鷗外記念館と文京区立森鷗外記念館の協力を得て、鷗外が愛した四季折々の草花をパネルで紹介しました。

青森県近代文学館寺山修司パネル展

期間 令和五年一月二七日(金)～三月二一日(火・祝)

寺山修司の没後四〇年にあわせ、青森県近代文学館が没後三〇年の際に作成したパネルを展示しました。

文学の小路を作品発表の場にどうぞ！

展示室周囲のスペース「ギャラリー文学の小路」では、文学に関する作品（詩、短歌、俳句など）を展示しています。学校の授業や部活動・県内文学関係グループの文学に関する作品発表の場としてご利用ください。

第三回万葉の里短歌「あなたを想う恋のうた」入賞作品展

期間 三月二五日(金)～四月一七日(日)

中臣朝臣宅守と狹野弟子娘子ゆかりの地、味真野にちなんだ短歌コンクールの入賞作品をパネルで紹介しました。

福井県小中学生写生画コンクール入賞作品展

期間 七月一五日(金)～七月二二日(金)

福井県内小中学校の図画工作・美術教育の充実・向上を目的とした「県小中学生写生画コンクール」で入賞した作品を紹介しました。

家族ふれあい絵手紙コンクール

期間 二月三日(土)～二月一日(日)

福井市が主催する「家族のふれあい」をテーマにした絵手紙コンクールの入賞作品を紹介しました。

「比那ヶ岳俳句会」作品展

期間 令和五年一月二五日(日)～一月二五日(水)

越前市を中心に活動する俳句グループの作品展を開催し、新年を詠んだ俳句などを紹介しました。

教育普及活動

○文学フェスタ

一月、県内で文芸創作を行う方々が作品を発表したり、作り手や読者が交流したりする場として、文学のお祭り「文学フェスタ」を開催しました。図書館エントランスホールには、文学同人や大学の文芸部など一団体がブースを開設し、同人誌の配布・販売や活動紹介を行いました。気になるブースを回ってシールを集めたら文学館で文豪おみくじガチャができる「同人誌スタンプラリー」も同時に開催しました。新たな試みでは、他のグループや一般の方に向けて、「同人誌グループセッション」として、活動紹介やこれまでの歩み、作品朗読などを行いました。各グループのみなさんの文学に対する熱い思いが



感じられる発表でした。

また、講演会では、直木賞作家・中島京子氏をお招きしました。「創作の愉しみ」と題して、少女時代から作家になるまでの文学との関わり、読書や創作の効用についてなどのお話を伺いました。ユーモアを交えた温かな語り口に参加者は魅了されました。佐藤実紀代氏ワークショップ「自分でつくる『リトルプレス』のすすめ」小説などの活字を中心に、では、本の各部の名前から出版にいたる基本的な事柄を学び、参加者はそれぞれオリジナルの本づくりに時間を忘れて夢中になりました。このほか、福井の文学出版物の展示やカフェあすわの木の、中島京子作品にまつわる特別メニューを楽しんでいただきました。久しぶりに、賑やかな文学フェスタが戻ってきた充実した一日になりました。

作家講演会

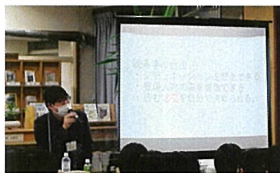
七月に「角野栄子展」魔女とおぼけの世界へ」の記念講演として、児童文学者の角野栄子氏に「旅と物語」というテーマで、子どもから大人まで幅広い世代の方に向けて、創作への思いをお話しいただきました。二月には、「師・萩原朔太郎と三好達治」の記念講演として、前橋文学館館長で映像作家の萩原朔美氏に「人の故郷は土地ではないかも知れない」と題して、言葉こそが人の故郷であるということをお話しいただきました。



二月に福井県立図書館移転開館二〇周年を記念して、今村翔吾氏の講演会「直木賞から旅に出て」を開催しました。今村氏は一乗谷が登場する『塞王の楯』にて直木賞を受賞され、書店を応援するため全国行脚の旅に出られたことなどをお話しされました。また、三月には第二六回風花随筆文学賞の記念講演として、特別審査委員長の出久根達郎氏に魅力ある本の世界についてご講演いただきました。

オーサートーク作家による出前授業

青柳碧人氏をお招きし、一二月に武生東高校、高志高校にて「オーサートーク作家による出前授業」を開催しました。ご自身の読書体験や学生時代のエピソード、作家になるまでの経緯を紹介していただき、クイズを交えながら、小説とは「自由」なものであるということについて言及されました。小説は読み手にも書き手にも「自由」なのであるということ、形式に縛られず、自分のスタイルで読み進める「自由」があることを述べられました。



ジュニア文学カフェ

今年の文学カフェは県内の高校文芸部員、文章執筆のコツを学びたい高校生が集い、新潮社の編集者である森重良太氏から他者に読んでもらえる文章を書くコツについて、具体例を挙げながら分かりやすく説明をしていただきました。文章表現に長けた作家の作品をたくさん紹介していただき、生徒たちは熱心にメモを取っていました。

創作講座

一般向けの講座として、文章講座を全三回、俳句創作の講座を一回開催しました。文章講座は、風花随筆文学賞実行委員会との共催により、県内在住の作家、新潮社の編集長を講師に迎え、随筆とは何かという基礎的なところから学び、実際に随筆を書くためのコツや技術を解説していただきました。俳句創作の講座では、福井県俳句作家協会副会長の村田浩氏があらかじめ投句してもらっていた受講者の俳句を一つずつ丁寧に解説し、俳句創作の基本を指導していただきました。



文学講座

自動からくり人形作家の武藤政彦氏の講座を四月に開催し、「ムットーニ創作の秘密」と題して物語世界を繊細に表現した唯一無二の自動からくり人形の見どころや創作秘話についてお話しいただきました。

六月には、児童文学の研究者である谷出千代子氏を講師に、「福井 子どもの本の作家今昔！」と題してご講演いただきました。明治期に活躍した宇野若翠に始まり、いわさきちひろ、かこさとしなど現代の作家まで福井の児童文学者や作品の特徴などをご紹介いただきました。

八月に、夏季企画展の関連講座として、山口県で児童書の専門店を経営されている横山眞佐子氏に、子どもたちと本をつなぐ活動の大切さをお話しいただきました。

一〇月に、大野市出身で日本の近現代詩の研



究者九里順子氏を講師に迎え、「ことばを『盗む』犀星―朔太郎、達治に触れつ―」を開催しました。詩人・室生犀星には「盗む」という犀星独自のことばのつかみかたがあることを説明されました。

一二月には、小浜市出身の詩人・川口晴美氏が第三〇回萩原朔太郎賞を受賞されたことを記念し、「小さな声に耳を澄ます〜私のなかの詩という〈電流体〉」を開催しました。講座では中高生時代に出会ったという萩原朔太郎の『月に吠える』から、『竹』

「地面の底の病気の顔」などの詩を紹介していただきました。

ふくい文学ゼミ

八期目となる作家養成講座「ふくい文学ゼミ」を今年も開講し、高校生から五〇代までの一五名が受講しました。一年を通じたプログラムにより、新潮社の編集者である上田恭弘氏から小説執筆の心構えや登場人物の設定、ストーリーの作り方などを学びました。毎回の課題作品の合評では、講師から丁寧な講評を受けつつ、仲間との切磋琢磨により実践力を磨きました。

出前文芸創作教室

詩や短歌、俳句など文章表現の分野で活躍されている方が学校に向いて創作の技術やノウハウを教える出前教室を開催しました。

七月に勝山高校で俳句（中内亮玄氏）、若狭

東高校で短歌（北野よしえ氏）、坂井中学校と春江中学校で詩（福井県詩人懇話会）、九月に鷹巣中学校で俳句（西村圭子氏）、一二



月に藤島高校で随筆（増永迪男氏）の出前授業を行いました。短歌の教室では高校で教諭を勤められ、歌人としてもご活躍の北野よしえ氏が短歌づくりを指導されました。自分をしっかりと見つめ直すところから短歌創作が始まるということで、生徒たちは最初とまどいながらも、講師にアドバイスを受けながら、思い思いの短歌を作ることができました。

資料寄贈のお願い

当館では、福井の文学に関する資料を収集・保存し、次の世代に継承するとともに展示・研究などで活用してまいります。福井ゆかりの作家や作品に関する資料（自筆原稿、書簡、書画、挿絵、愛用品、写真、映像等）がございましたら、文学館まで寄贈くださいますようお願いいたします。

【寄贈受贈】

令和四年度に寄贈いただいた方を紹介します。

石川九楊氏、佐藤美紀代氏、津村節子氏、奈良ゆみ氏、林照翁氏、宮下堅司氏
(五十音順)

トピックス

◆令和四年一二月、昨年の高見順に続き、当館所蔵の三好達治関連資料のうち七二点の画像を「デジタルアーカイブ福井」（福井県立図書館・文書館・文学館が管理する協同検索データベース）で公開しました。これにちなみホームページにおいて、デジタル文学館「直筆資料で読む三好達治の作品」を開始しています。三好達治の美しい書の筆致をご自宅のPCやスマートフォンでご覧いただけます。

令和4年度に開催したイベント一覧

期日	イベント名	場所	期日	イベント名	場所
4/9(土)	文学講座(武藤政彦氏)	多目的ホール	9/14(水)	出前文芸創作教室(俳句:西村圭子氏)	福井市鷹巣中学校
4/24(日)	第25回風花随筆文学賞授賞式	多目的ホール	9/25(日)	山の文学キネマ「富士山頂」	多目的ホール
4/30(土)	キッズ文学キネマ「こぎつねのおくりもの」	研修室	10/8(土)	文学講座(九里順子氏)	多目的ホール
5/5(木・祝)	キッズ文学キネマ「こどもにんぎょう劇場「西遊記」	研修室	10/9(日)	第3回文章講座(堀口晴正氏)	多目的ホール
5/29(日)	ジュニア文学カフェ(森重良太氏) <small>※高校文芸部連携</small>	多目的ホール	10/29(土)	第3回ふくい文学ゼミ	研修室
6/25(土)	文学講座(谷出千代子氏)	多目的ホール	11/6(日)	文学フェスタ「講演会」(中島京子氏)	多目的ホール
7/2(土)	講演会(角野栄子氏)	多目的ホール	〃	文学フェスタ「ワークショップ」 (佐藤実紀代氏)	研修室
〃	第1回ふくい文学ゼミ	研修室	12/8、9 (木、金)	オーサートーク(青柳碧人氏)	福井県立武生東高校 福井県立高志高校
7/6(水)	出前文芸創作教室(俳句:中内亮玄氏)	福井県立勝山高校	12/11(日)	文学講座(川口晴美氏)	多目的ホール
7/9(土)	第1回文章講座(張龍二三枝氏)	多目的ホール	12/12(月)	出前文芸創作教室(随筆:増永迪男氏)	福井県立藤島高校
7/11(月)	出前文芸創作教室(詩:福井県詩人懇話会)	坂井市坂井中学校	12/17(土)	講演会(萩原朔美氏)	多目的ホール
7/12(火)	出前文芸創作教室(短歌:北野よしえ氏)	福井県立若狹東高校	1/7(土)	現代文学キネマ「舟を編む」	多目的ホール
7/28(木)	出前文芸創作教室(詩:半田信和氏)	坂井市春江中学校	1/21(土)	第4回ふくい文学ゼミ	研修室
7/31(日)	子ども室×文学館コラボ 「魔女とおぼけのよみかきせ会」	映像ルーム	2/18(土)	第5回ふくい文学ゼミ	研修室
8/11(木・祝)	夏休み文学キネマ「銀河鉄道の夜」	研修室	2/19(日)	図書館移転開館20周年記念講演会 (今村翔吾氏)	多目的ホール
8/21(日)	文学講座(横山眞佐子氏)	研修室	3/5(日)	第26回風花随筆文学賞授賞式	多目的ホール
8/27(土)	第2回ふくい文学ゼミ	多目的ホール	〃	講演会(出久根達郎氏)	多目的ホール
9/3(土)	第2回文章講座(増永迪男氏)	多目的ホール			



観覧料…無料
 休日…毎週月曜日(休日の場合は翌日、
 祝日の翌日(翌日が土日の場合は除く、年末年始)
 資料点検期間、第四木曜日(月)によって変更あり
 開館時間…平日 九時～一九時
 土日祝 九時～一八時



ふるさと文学館へはフレンドリーバス(無料)が便利です。
 福井駅東口バスターミナルから30分間隔で運行(約15分)

新収蔵品展を含む大型企画展、様々なテーマのもと企画されたプロログゾーンの展示、講演会や創作講座など、コロナ禍が続く中、様々な展示やイベントを開催することができました。今後もふるさと福井の文学に親しむことができる企画展やイベントを、時代に即した形で皆様に提供させていただきます。



福井県ふるさと文学館報 第9号

発行日 令和5年3月31日
 創刊日 平成27年3月31日
 発行所 福井県ふるさと文学館
 福井市下馬町51-11(福井県立図書館内)
 TEL:0776-33-8866
 FAX:0776-33-8861
<https://www.library-archives.pref.fukui.jp/> (55030)

